

近畿本部（登録）防災研究会
第2回「防災講演会」のご案内

テーマ：大地震時に盛土造成地で起きる滑動崩落現象の発見と予測方法の構築

近畿本部（登録）防災研究会の防災講演会を以下のとおり開催いたします。防災に関わる問題は、全ての技術部門の技術士にとって重要なテーマのひとつです。多くの方々のご参加をよろしくお願い致します。なお、まだ技術士会に入会していない方や一般の方も参加することができます。

記

日 時：平成 26 年 11 月 25 日（火） 19:00～20:00
 場 所：日本技術士会近畿本部会議室
 内 容：「大地震時に盛土造成地で起きる滑動崩落現象の発見と予測方法の構築」
 講 師：有限会社太田ジオリサーチ 太田英将 氏
 参加費：500 円（防災研究会会員は無料）
 懇親会：講演会終了後、会場の近くで開催（会費 3,000 円程度）
 申込み期限：平成 26 年 11 月 22 日（土）

近畿本部（登録）防災研究会 第 2 回「防災講演会」参加申込書

平成 26 年 月 日

氏 名		防災研究会（会員、非会員）
懇 親 会	参加する	参加しない

防災研究会の会員以外
 の方は以下も記載して
 下さい。

技術士部門		技術士会（会員、非会員）
勤 務 先		
電話番号		
FAX 番号		
メールアドレス		

【申込み先】公益社団法人日本技術士会近畿本部（登録）防災研究会

E-mail：minamigawa@etude.ocn.ne.jp

FAX：072-242-7179（担当幹事：南側晃一）

第2回「防災講演会」

「大地震時に盛土造成地で起きる滑動崩落現象の発見と予測方法の構築」

有限会社太田ジオリサーチ 太田 英将

技術士（応用理学、建設、森林、総合技術監理部門）、Apec Engineer (Civil)

【略 歴】

1960年鳥取県生。1982年静岡大学理学部地球科学科卒業。明治コンサルタント(株)を経て、1990年に太田ジオリサーチ創業、現在に至る。専門は、地質・土質、斜面防災対策など。阪神・淡路大震災で丘陵地の盛土造成地が地すべり変動を発生したのを契機に、その発生原因と予測・対策方法について京大防災研の釜井俊孝教授らと検討し、2000年頃に解明。2004年の中越地震でも同様の災害が発生し、2006年の宅地造成等規制法改正（大規模盛土造成地変動予測事業および宅地耐震化事業の創設）時に技術支援を行った。2008～2010年には国土地理院が無償提供する「盛土形状計測・相対的滑動崩落発生可能性評価支援システム」の作成に従事した。



【講演概要】

1995年の阪神・淡路大震災で、丘陵地の谷を埋めた盛土造成地で地すべり変動が発生した。西宮市仁川百合野町では、崩壊した盛土が斜面下方の住宅を襲い、34名が亡くなるという大災害となった。この地震により、非常に勾配の緩い谷を埋めた盛土が震度6以上の揺れで地すべりの変動を発生させることが初めてはっきりと認識されたが、その変動メカニズムは未知であり、対策の術もなかった。京都大学防災研究所の釜井俊孝教授と、応用地質学会の委員会などを通して、発生原因を解明したのが2000年頃である。その変動メカニズムは、従来の斜面問題の常識とは大きく異なるものだったため、旧来の研究者にはなかなか受け入れられず、2004年中越地震、2007年中越沖地震、2011年東日本大震災の実被害を経なければならなかった。

2004年中越地震で同様の盛土造成地の地すべりの変動が発生した際には、国土交通省がその現象を「滑動崩落」と命名し、宅地造成等規制法の改正を行う決断をした。法律改正作業において技術的な支援を行った。法律改正後、全国の自治体は、大規模盛土造成地において、第1次スクリーニング（盛土の分布マップ作成）、第2次スクリーニング（危険個所の詳細調査）が行われるようになった。

変動予測技術については、国土地理院が全国に無償配布する目的で「盛土形状計測・相対的滑動崩落発生可能性評価支援システム」を作成する際に協力した。

2011年の東日本大震災では、事前にこの手法で予測していた仙台市の盛土造成地の変動予測結果が、実際に発生した現象とよく合致していた。この手法は2012年の「大規模盛土造成地の変動予測調査ガイドラインの解説」改正時に変動予測手法として組み込まれた。改訂前に既に第1次スクリーニング実施済みの自治体の中には、第2次スクリーニングの優先順位決定のために、現在この手法で見直しを掛けているところもある。

講演では、現象の発見からメカニズムの解明に至る過程、法改正に至る過程、法改正後の混沌、および変動予測システムについて説明する。